

令和4年度 学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	「あたたかい学校づくり」～自己肯定感を育てる～ ○ 健康で安全・安心な学校づくりを更に進める。 ○ 一人一人の特性を伸ばし、将来の生活を見据えた教育活動を推進する。 ○ 教職員間の協働による、チームとしての教育活動の充実と業務のスリム化を図る。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	・児童の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる環境づくりをする。	・児童の人権に配慮した授業実践を図る。 ・新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら、学習環境や教室環境の改善及び工夫を行う。 ・確実な引継ぎができるように、引継ぎの方法や資料の充実、引継ぎ会の設定をする。 ・ヒヤリハット事例を学年会及び部会で共有し、その後の対応も合わせて報告できるようにする。	・児童の発達段階や生活年齢を考慮した指導計画を立案し、授業実践ができた。また、児童の人権や安全に留意した指導及び支援が行えた。今後は、指導方法や支援の仕方など学年で共通理解を図るために、ケース会の設定も随時行えるようにしたい。 ・感染症対策を前提とした指導計画を立案することができた。 ・次年度に向けて安全で確実な引継ぎができるような資料作成やビデオ録画等を行った。今後もよりよい引継ぎ方法を部全体で検討していく。 ・学年及び部内でヒヤリハット事例の共有や日本スポーツ振興センターの事例をもとにし、学年会等で事故防止につながる話し合いが行えた。定期的実施することで事故防止の意識を高めていく。
中学部	・生徒一人一人の心と体が十分に動く授業を進め、チャレンジする気持ち・表現する力・自立のために必要な力を育てる。	・生徒の個性や人権を尊重し、尊厳を守った指導を心掛ける。 ・主体性を重視し、実態に基づいた単元を設定する。 ・体験的学習を積極的に取り入れる。 ・自立のために必要な力、それに対する個々の生活課題を明確にする。 ・保護者及び生徒に、分りやすく丁寧な説明や言葉掛け、対応を行う。	・教材教具の工夫や、体験的な学習、ICT機器の有効活用などにより、生徒一人一人が生き生きと活動できるような授業を展開することができた。 ・学習成果のあった題材や教材、指導方法などを部内で情報共有できるとさらによい。 ・個別指導において個々の生活課題を意識した指導ができていていると感じる教員が多いので、さらに集団学習においても意識できるとよい。
高等部	・自立と社会参加を目指し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。	・生徒同士や教職員との関わりの中で、挨拶及び場面に応じた態度、実態に応じた話し方などのコミュニケーション能力の向上を図る。 ・産業現場等における実習、就労体験実習、校内実習、作業学習などの職業教育の充実を図る。 ・人権や発達段階に配慮した教育に取り組む。	・対話的な授業に取り組み、コミュニケーション力を向上することができた。コロナ対応により他学年の友達や教員と接する機会が少なくなっている。 ・実習等とおして、卒業学年は就労に向けた具体的な準備ができた。1、2年生は卒業後の生活をイメージすることができた。 ・場面や発達段階に応じた指導を意識し取り組んできたが、できていない場面も見られた。
訪問教育	・訪問教育の教職員間で児童生徒の実態について共通理解を図る。	・毎週行われる訪問教育会議で児童生徒の情報交換、体調面、学習の進捗状況などの確認をこまめに行っていく。 ・校内及び外部機関とも連携を密にしながら、進めていく。	・週1回の訪問部会を通して、訪問職員全員で、児童生徒の実態の共通理解を図ることができた。また、日々の授業の打合せなどを通して、担任と副担任で情報交換をこまめに行い、児童生徒の心身の成長の支援をすることができた。 ・進路に関しては、保護者の気持ちに寄り添いつつ、進路主任からの情報提供も行った。各家庭の希望に沿った進路先を決めることができた。 ・家庭の事情に応じて、校内の担当主任、児童相談所や地域の福祉関係職員などと連絡を取った。今後も、家庭の状況に応じて、連携を大切にしたい。 ・次年度は児童生徒数が増加するため、職員間の情報交換をより円滑にできるよう工夫する。
総務部	・児童生徒の学習活動が向上するように環境を整える。 ・効率よく業務ができるように環境を整える。 ・介護等体験などの実習に関して、仕事の効率化を図る。	・教室の備品・消耗品の整備をする。 ・職員の共用場所や共用備品の管理、整理整頓をする。 ・受付時間や当日欠席する場合の留意点など、事前に大学側と細かな打ち合わせをする。 ・学生が授業見学の部を、日ごとでまとめることで効率的に進める。	・備品の調査を行い新しくデータを更新し、管理体制を整えた。共用場所の消耗品については、補充不足や在庫がないなど迷惑をかけることが度々あった。今後は消耗品についても定期的に点検して補充を行い、活用しやすい場にしていく。 ・介護等体験などの実習に関しては、受付時間や当日欠席する場合の留意点など、事前に大学側に文書で依頼したので、おおむね問題なく終えることができた。また、学生が主体的に行動できるように、手順や校内図を作ったので、効率的に仕事を進めることができた。

<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の二学期制の導入に向けて検討し、教育の充実を図る。 ・児童生徒一人一人に合った学びを実現し、資質・能力を最大限に引き出すことができる授業を実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二学期制の導入で教育活動はどう変わるのか、という視点を柱に、効果的な在り方、その課題について、協議を深められるようにする。 ・二学期制実施校から課題等の情報を収集し、教職員間で共通理解を図る。 ・新学習指導要領の全面実施を迎え、3観点を踏まえた客観的な評価を生かした授業を目標とする。 ・教育情報部とICTについての課題を共有し、ICTを手段として積極的に活用し、“主体的・対話的で深い学び”を充実させた授業実践を推進する。 ・授業づくり相談会、夏季研修、授業振り返り週間などの実施をとおして、授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先行して二学期制を導入している県内の肢体不自由特別支援学校の現状と課題等を収集し、協議に向けての検討課題と児童生徒へのメリット等を整理して提示することで、各部とも建設的な意見交換を行うことができた。 ・児童生徒の学校生活の充実と長い期間でのゆとりある学習の計画、きめの細かい指導と評価を実施できるように、評価を含めた完全二学期制に移行することを職員間で共通理解でき、次年度より二学期制に移行することを決定できた。 ・「個別最適な学びに」に向けて、各部とも工夫した授業実践を積み重ねることができた。ICTの活用と授業実践の共有、授業力向上に向けての授業振り返り週間について、よりよいものとして活用できるように、今後も検討を深めていく。
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体制の整備と周知を行う。 ・スクールバスの安全で円滑な運行を行い、感染症対策を徹底する。 ・いじめの未然防止と早期発見、適切な事案対応を行う。 ・分掌業務の精選を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの改訂内容や重要項目について職員への周知を図る。 ・避難訓練及び職員研修等の実施と検証をする。 ・スクールバスの運行経路及び時刻が適切であるか調査し、検討及び修正する。 ・児童生徒の状態を把握し安全な乗車を図る。 ・職員や乗務員、保護者や児童生徒、バス車内の感染症対策をする。 ・いじめや悩みについて調査する生活アンケートを実施し、児童生徒の困り感に対し適切な対応ができるようにする。 ・議題及び研修等の精選を行い、業務のスリム化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震警戒情報が発布された際の対応について、保護者・職員に周知することができた。 ・コロナ禍以前の避難訓練に近い、より実践的な訓練を実施することができた。 ・職員研修を避難訓練と紐づけし、課題を発見し、避難訓練に生かすことができた。避難時間の短縮につながるような研修、訓練を実施していきたい。 ・夏季休業中にバスコースを確認し、停車位置や保護者駐車場の確認を行い、写真データにまとめることができた。定員に達しているバスコースの見直しを行う。 ・保護者、学級担任等と情報を共有し、児童生徒が安全に乗車できる環境を整えることができた。 ・職員や乗務員、保護者や児童生徒の健康観察や手指消毒、車内の換気や消毒により感染症対策を取ることができた。 ・児童生徒対象にアンケート調査を実施（6月）し、必要に応じて担任・保護者と連携しながら対応を行った。 ・担当業務内容の検討及び改善を行い、業務のスリム化につなげることができた。
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進を図る。 ・在宅就労の推進を図る。 ・教員、保護者に対して進路指導に関わる情報提供の充実を図る。 ・進路先との連携を充実し適切な進路開拓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習、外部講師による講話等を実施する。また積極的に長期休業中に保護者及び児童生徒への施設見学を進める。 ・テレワークの要素を取入れた実習や遠隔授業を行う。外部の関係機関へ情報発信を行い、情報交換や研究協議を行うことで在宅就労モデルの構築を図る。 ・保護者に対し各部懇談において講話を行う。また、進路だよりや進路の手引きを発行する。職員や保護者に対して外部講師の講話を行う等、関係者に対して適切な情報提供を行う。また教員に対して情報提供や研修を行い、専門性を高める。 ・事業所訪問によって卒業生の定着を図ると共に、関係諸機関との信頼関係を構築し、情報を収集するとともに生徒の進路選択につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や他校と協働による実習を行うことができた。また他校生徒の参加希望も前年度に比べ大幅に増えた。 ・オンラインを活用したコロナ禍における新しい実習の形を模索できた。 ・外部講師を招致し、保護者の興味関心のある話題を取り上げ進路講話会を実施し、高い参加率を得ることができた。 ・関係諸機関と連携し、希望する進路先を確保できた。 ・コロナ禍により、事前の事業所見学が不十分で、高等部3年進級時に進路希望先が確定していない生徒が多かった。計画的な事業所見学、情報の収集を各家庭で主体的に行うよう啓発を図ることが課題である。 ・中学部で福祉事業所や特例子会社の見学を行い、高等部卒業後の生活に対するイメージを深めることができた。小学部から高等部までを見通した系統立てたキャリア教育の充実を図りたい。
<p>研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の専門性や指導力が向上するように、校内における各研修や研究を整える。 ・校外の研修を受けやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における各研修や各係の内容を精選し、資料や手順の整理を行う。 ・初任者が指導力を付けられるように、初任者を指導する複数の教職員で情報を共有し、解決方法を探る。 ・校外の研修を紹介し、申し込み方法のマニュアルを作るなどして、研修を受けやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による校内研修について、現状の把握と今後の進め方、費用の取り扱いについて整理を行った。外部講師の要望が複数あるため、学校として可能な研修の在り方や校外研修の案内について、引き続き検討・整理していく必要がある。 ・初任者研修に関わる職員の話合いの機会を設け、情報共有を図った。初任者に関わる先生方が丁寧に温かく指導してくださったことにより、初任者研修がスムーズに進み初任者も多くのことを学ぶことができた。 ・教員サポートシステムによる研修の申し込みについてマニュアルを作成し、スムーズに導入することができた。研修部掲示板を使いやすく見やすいように改善した。グループウェアを活用した研修案内について、次年度以降検討したい。

<p>図書・視聴覚部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習活動を向上させ、豊かな心を育てる図書環境作りをする。 ・視聴覚機器の効果的な利用のための環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書棚の有効活用、配架や見出しの整備・工夫をする。 ・図書館まつり等の企画や日常の啓発活動の中で、本に親しむ機会を提供し図書の利用を促す。 ・視聴覚機器の管理及び利用しやすい環境作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙の見えるような掲示方法や、本を見やすいところに配置することで、本の存在に気づいたり、生徒が手取りやすくなった。より手取りやすい棚などの工夫をしていく。 ・図書館まつりでは新たに校長先生による読み聞かせや本にちなんだゲームを取り入れることで多くの参加を促すことができた。著作権に注意しながらより児童生徒が楽しめる企画に取り組んでいきたい。 ・視聴覚準備室の整理整頓を行い、見やすく利用しやすくなることできた。大型テレビの付属品や配置場所の確認を行った。今後は物品の管理に力を入れていく。
<p>保健部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット等の事例の蓄積と予防対策に努める。 ・職員間の連携を大切にし、保護者と児童生徒が安心して登校できるような体制の構築に努める。 ・新型コロナウイルスなどの感染症の発生予防や拡大防止に努めながら、児童生徒の学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で具体的な対策（環境整備、支援方法等）を早急に検討する。 ・保健部で集約し、毎月職員に報告し、事例と対策を共有する。 ・医療的ケアの教育的意義を各々の立場で深め、児童生徒に必要な配慮や支援について共通理解を図りながら対応する。 ・愛知県教育委員会のガイドライン等を基準とし、児童生徒、職員共に基本的な感染症対策や健康観察を徹底する。（手洗い等の手指衛生、こまめな換気、流行期のマスク着用、排せつ物や吐物の適切な処理方法） 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌会、学年会、部会で必ず話題にし、事例の対策についても早急に検討を依頼した。今後もヒヤリハットの意識向上を目指して、報告だけでなく多角的な検討を行うためのツールとして活用していきたい。 ・看護師と教員の双方の情報を共有することで、よりケア児童生徒を理解した医療的ケアに繋げることができた。今後も日頃から細やかな情報共有を大切にしていきたい。 ・本校の医療的ケアについて保護者や職員が理解しやすいように丁寧な提示を心掛けた。新規医療的ケアの保護者に対してより丁寧で安心できる説明をしていきたい。 ・感染症に罹患した児童生徒や職員と同じ学習集団で関わった対象へは、こまめな健康観察や感染対策の強化を行うことで感染拡大の防止に努めた。 ・健康観察カードの記入で気になる症状や欠席等があれば個別に聞き取りを行い、早期対応を図った。今後も日常的な感染対策を継続していきたい。
<p>自立活動部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の様式を改め、新学習指導要領に対応した個別の指導計画の新様式を検討する。 ・学校生活全般での指導を記入する欄を設け、児童生徒の生活の中でより一層自立活動を意識できるようにする。 ・実態把握や課題設定の方法、指導の手だてにつながる実技研修など、個別の指導計画作成に役立つ職員研修を実施したり相談活動の充実を図ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の様式について昨年度より検討を重ねて、新学習指導要領に対応した新様式を作成できた。 ・自立活動の意義や自立活動の個別の指導計画作成の手順などについて全校研修を行った。個別の指導計画の新書式に多くの意見が出され、検討を深められた。 ・感染症対策に配慮しながら年間9回の研修を実施した。課題は参加者数のばらつきである。研修内容の見直しやグループウェアの活用を行っていきたい。 ・相談活動については、小学部より9件の相談があった。個別に対応したり外部専門家に相談したりして、その一部を自立活動部研修で報告した。今後の課題は、相談内容を係で共有したり検討したりするための係の会議時間の設定や活動内容の明確化である。
<p>教育情報部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒及び教職員が、一人1台タブレット端末を積極的に利用し、更にICT教育を推進できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等で、タブレット型端末を利用しやすいうように、タブレット型端末や周辺機器等の整備をする。 ・利用規約を始めとするタブレット型端末の使い方等を児童生徒や保護者、教職員に周知して、学校での学習が家庭でも継続できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に多くの教職員がタブレット型端末を教室へ運ぶ姿が見られるようになり、タブレット型端末を使用して授業をすることが当たり前になりつつある。今後は、整備した入力支援機器等の活用を進めていきたい。 ・タブレット型端末の児童生徒宅への持ち帰りについて、数名の担任から希望があったが、特別な事情のある児童生徒3名にしか、貸与することができなかった。家庭への持ち帰りの意義についての認識に差があるため、もっと、周知していく必要がある。
<p>教育支援部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との関わりや相談に関する体制を見直すことで連携強化を図り、円滑な地域支援活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校区内の市町村立学校への支援を働きかける。 ・相談記録の様式を整えることで、円滑な相談業務を目指す。 ・支援の方法や技術について学ぶ機会を設け、指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校区の関係機関に対し、ひまわり相談のパンフレットを100部程度配布し周知を図ることができた。 ・相談用紙のひな形を作成し活用したところ、相談相手から負担感は少なかったとの回答をいただいた。校内で検討していく中で子どもの強みを生かした相談になるように項目を見直し、追加することとなった。 ・会議の回数が減少したので、紙面回覧での情報提供が中心となった。研修で学んだことや相談前後に話し合える時間を会議内に設定していくことが課題である。
<p>総合評価</p>	<p>授業に関するアンケート評価では、「個別の指導計画の十分な説明」「適切な指導内容や手立て」「意欲や関心を引き出す授業」「分かりやすく、学習内容が身に付く授業」という項目で90%を超える保護者から良好という評価をいただいた。意見の中に「タブレットを使ったり、テレビとタブレットを連動させたりと授業にデジタル化が多く取り入れられびっくりした。授業が進化していると感じた。」とあり、個に応じたICTの活用が進んだことが高い評価の要因の一つではないかと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症への学校としての対応については、95%を超える保護者から良い評価をいただいた。今後も、個人情報の保護に留意しながら、必要な情報を保護者に迅速に伝え、感染症予防に向けて最大限の努力を続けていかなければならない。また、社会状況に合わせて、コロナ禍の行事や校外での学習、外部の人が来校する活動について、学校としての基本的方針を見直していかなければならない。</p>		

イ 学校関係者評価

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<p>「あたたかい学校づくり」～自己肯定感を育てる～ ○ 健康で安全・安心な学校づくりを更に進める。 ○ 一人一人の特性を伸ばし、将来の生活を見据えた教育活動を推進する。 ○ 教職員間の協働による、チームとしての教育活動の充実と業務のスリム化を図る。 ○ 「いじめ・不登校対策委員会」を年間5回開催し、児童生徒の状況を把握し、いじめの早期発見及び未然防止に努めた。</p>
<p>自己評価結果について</p>	<p>・全保護者を対象に「授業に関するアンケート」を、PTA役員を対象に「学校に関するアンケート」を実施した。どちらも大旨良好との評価を得た。また、各部、各校務分掌の評価でも、ほぼ全てにおいて4段階の上から2番目の評価であった。 ・昨年度はコロナの感染状況が落ち着いた時期に一部の学習集団のみ、校外学習等を実施できた。今年度は地域のコロナの感染状況を鑑み、感染対策を講じて校外学習や行事等、多くの学年で児童生徒の実態に応じた内容で体験的な学習を行うことができた。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<p>・コロナ5類感染症への位置付け変更に伴い、学校での安全対策、学習環境、学習内容等の見直しを行い、学習環境を整える。 ・発達段階に応じた指導内容の体系化、学習内容が身に付く授業の工夫を一層進め、スクール・ポリシーについて各部で実践を進める。</p>
<p>その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)</p>	<p>・コロナ禍で不自由があったが、先生方の熱意が伝わってきた。コロナでオンラインが進むなど、悪い面だけでなく、よい面があった。今後も、よい面を活用できるとよいと思う。 ・障害者当事者として、障害のある人の通いやすさが特別支援学校にはあり、親が選んで来られるようになるとよいと思う。 ・コロナ禍で様々な制限があり、もどかしさがあり難しかった。先生方の御協力もあり、文化祭でPTA企画でプラネタリウムができ、子どもの喜ぶ姿を見ることができてよかった。 ・小学部、中学部、高等部の交流の取組はよいと思った。 ・ヒヤリハットについて、事故になる前に気付くことが大切である。「報告ありがとうという文化」、1つのヒヤリに100隠されているので、ヒヤリハットをやっていくことはよいと思います。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>・構成…学校評議員6名、PTA役員3名 評価時期…2月下旬</p>